



関前中学校外観。校舎は岡村小学校も併設されている



島の玄関口となる岡村港



弓祈禱 2 (左は越智校長・写真提供＝関前中学校)



弓祈禱 1 (2016年2月・写真提供＝関前中学校)

シリーズ 中学校武道

授業の充実に向けて 100

複数種目授業の実践報告と課題 14 (弓道・剣道)

今治市立関前中学校

愛媛県と広島県の間にある芸予諸島。その中央にある愛媛県今治市岡村島の旧関前村に関前中学校がある。その地域は昔から教育熱心で学校教育にも協力的である。生徒たちは、美しい海や山などの豊かな自然と、温かいまなざしの地域住民に見守られながら、温厚で純朴、健やかに育っている。

関前中学校は現在、学校全体で3年生女子生徒2名のみ、少人数学校である。しかし、校舎1階には岡村小学校が併設されており、そこに在籍している小学4年生、5年生、6年生の3名とともに、少人数学校という環境を生かし、小・中学校の連携強化を目指した教育活動を行っている。

昨年10月7日、その関前中学校での弓道(小笠原流弓術)の授業を取材させていただいた。その取材を踏まえ、同校での弓道・剣道の授業実践について紹介したい。

1 関前中学校の現状

昭和20年代、岡村島の島民は4000名を数えた。岡村島唯一の中学校である関前中学校は、およそ300名の生徒が在籍。武道授業は柔道と剣道を実施していた。戦後、高度経済成長期、バブル崩壊後のデフレ期と時代が移り変わるにつれ、島では高齢化が進み、みかんの生産量が減少。島での収入減は島民の減少に拍車をかけ、関

前中学校の生徒数も減少の一途を辿っていた。現在、島では327名が暮らし、関前中学校の教員数は校長も含め4名、生徒数は3年生の女子生徒2名である。小・中学校の連携を行い、岡村小学校の3名と併せて5名で様々な学習を行っている。

「高齢化が進んだ岡村島では、子供はかけがえのない地域の宝なんですよ」と関前中学校の越智克昌校長は語る。島民たちは自分の子供が巣立った現在、生徒を孫のように可愛がるという。そのためか、学校の広報誌である「岡村小・

2 地域の伝統文化 小笠原流弓術

関前中便り」は島内の全世帯に配布されているという。その便りを拝見すると、地域に密着した課外活動が多く充実していることがわかる。5月には、元サッカー日本代表の監督である岡田武史氏が代表取締役を務めるFC今治の選手が指導にいられたという。数少ない子供を大切にするため、島・地域が丸となって充実した課外活動を実施し、子供に有益な時間を提供する。これは少人数ならではのメリットではないだろうか。

昔から、岡村島では小笠原流弓術の文化が根付いており、その射法は体を捻りながら射る特有のもので、県の無形文化財になっている。江戸時代初期より現在まで、約400年の間、同じ形式で「弓祈禱」が実施されている。島内の姫子神社で2月に実施。境内に祀られている木花咲耶(コノハナサ

3 複数種目実施の経緯

クヤ) 姫は女性の神様のため、射手は男性のみで、6名ずつ2組(射太郎組・大関組)の射手の衆が古式に則って、鬼的および矢を射放す。当日は大勢の観衆が詰めかけ、盛大に開催されるという。

また、毎年11月には関前文化祭が開催され、各文化教室や子供たちの作品展示、地域団体の模擬店、リサイクル品の販売など様々な催しとともに弓の競技が披露されるという。

今からおよそ15年前、島民、生徒の数ともに減少の一途を辿っていた時、島では地域の伝統文化である小笠原流弓術の担い手も減少。中学校の武道授業で小笠原流を弓道の授業として実施できないかとの意見が出た。学校側も地域の伝統文化を守ることに賛同。「かけがえのない宝たちに地元根差



文化祭での弓競射2 (2016年11月・写真提供＝関前中学校)



文化祭での弓競射1 (2016年11月・写真提供＝関前中学校)



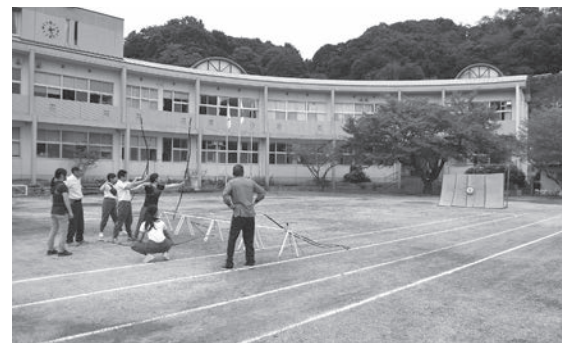
授業の様子2・体を捻りながら引分ける



授業の様子1・射法は蹲踞から始まる



授業の様子4・最後は全員で後片付けを行った



授業の様子3・射場からの的までは14m

した伝統文化を教え、将来的には地域の活性化につなげたい」——弓道授業としての小笠原流弓術の採用はそのような経緯でごく自然に取り入れられた。また、4年前の平成24年度に武道授業が必修となり、第1学年で剣道授業が実施され、全ての学年で弓道授業が実施される(第1学年と第3学年では総合学習の時間として実施)現在のスタイルとなった。

4

授業の実践

関前中学校では保健体育の免許をもっている教員がいないため、弓道の授業は、島内の外部指導者2名と、原則としてその時授業をもっていない教員全員により実施しているという。一度に2時間の授業を実施し、それを1年に5、6回、およそ10時間から12時間行う。

取材時には、2回目、3時間目と4時間目の授業を実施してい

た。中学3年女子生徒2名と小学6年の男子、計3名で実施。6年生の男子は弓道授業は初めてだという。授業の冒頭、6年男子は外部指導者1名による個人指導であったが、段取りの説明を受けると中学生とともに校庭に設営された仮設の弓道場で弓をひき始めた。実践しながらの指導ということらしい。仮設の弓道場での射場から的まで距離は的に中りやすくするため比較的短く14メートル。射場には陸上のハードルを置き、安土はサッカーゴールに古畳を立てかけたものを代用している。それ的にをぶら下げていた。弓、矢、胸サポーターなど授業に関する用具はすべて学校が用意するという。授業では小笠原流特有の射法で生徒たちは淡々と射る。岡村島の小笠原流の射法は全日本弓道連盟のそれとは大きく異なる。初めに的に向かって左側に体を向け蹲踞。時計回りに180度回転する。立ち動作である足踏みでは、左足は的に向け、右足は左足から時計回りに90度の方向、身体の前面向ける。乙矢を地面に立てかけ、安

土に対して平行に甲矢を打起す。時計回りに体を捻り矢を的の少し上向きから引分けるが、矢を地面に押し徐々に平行にして射る。残身。甲矢と同様の動作を乙矢でも繰り返す。外部指導者である弓術保存会の近松安文会長は「射法に上品さがあるでしょ。綺麗に丁寧に、観て美しい。そこが小笠原流です」と語った。この形が一番重要で、普段の授業でも多くの時間を射法・形に割くという。

小学6年の男子は矢を落とし、悪戦苦闘。何度目かに射ることができると大きな拍手が送られた。中学3年女子2名は3年目の弓道授業ということもあり、矢を落とすこともなく行っていた。

第1学年で実施する剣道授業も地域の指導者に来校してもらい、防具を着けて基本動作、技を中心に指導してもらっているという。以下は生徒たちの感想である。

▽中学3年女子・Aさん

「昔からある地域の文化なので、それを授業で学習できるのは、嬉しいし、誇りに思います。自分で

狙って的中すると楽しいですね。弓道も剣道も中学生になって初めて行いました。いい経験ができたと思います」

▽中学3年女子・Bさん

「弓祈禱では男性しか弓を射ることができません。しかし中学校の授業を通して小笠原流の授業ができるということは、中学校生活の中でも最高の思い出です。他の中学校ではできない経験をさせてもらっているの、ここは特別だなと思います。文化祭では去年よりも多い本数をあげたいです」

▽小学6年男子・Cさん

「初めてやりました。難しくなかなか射ることが出来ませんでした。が、面白いです。中学生になったからこの授業を受けたいです」

生徒の感想からは地元と地元の伝統文化に誇りを持っていることが感じられた。

前述の関前文化祭では昨年11月3日に中学生2名も弓の競射を行ったという。

最後に越智校長から弓道授業を終えた感想が寄せられた。

5

まとめ

「へき地小規模校の強みは、生徒の個性を生かしたきめ細やかな指導、地域の人材や自然等の教育資源を十分に活用できる環境、保護者や地域との強固な連携を図ることのできる状況等があります。この弓道の授業も、まさに、へき地小規模校の特性を生かした実践ではないかと思います」

高齢化が進む岡村島と生徒数を確保したい関前中学校。それは日本列島各地域の縮図のようにも見える。具体的な解決策はないのであろうか。

一つはやはり小笠原流弓術のように思える。10数年前に弓道授業を受けた元生徒たちは、現在、ほとんど島内にはいない。しかし、弓祈禱には帰ってくるという。かつてALT(外国語指導助手)として派遣された元教員で2週間休みを取り、ニューヨークから駆

本村清人〔著〕

「知・徳・体」を育む 学校体育・スポーツの力



●四六判・210頁
定価＝本体1,500円＋税

高校保健体育教師、教育委員会指導主事、さらには文部科学省体育官といったさまざまな立場で学校体育・スポーツに関わってきた著者が、これまでの学習指導要領の作成経緯や教育理念をわかりやすく解説。改めて学校体育・スポーツの重要性を説き、その担い手である保健体育教師に激励の言葉を贈る。保健体育教師はもとより、学校長、指導主事にとっても貴重な1冊。

【主要目次】序章 スポーツ庁の設置と学校体育・スポーツの発展／第1章「体育」「スポーツ」の位置づけと学習指導要領／第2章 教育理念「生きる力」と学校体育・スポーツ／第3章 「知・徳・体」を育む授業の要／第4章 学校体育の現場を支える人材の重要性／第5章 教育活動の一環である運動部活動の意義／終章 学校体育・スポーツの力

コアとなれ、学校体育・スポーツ！

大修館書店

〒113-8541 東京都文京区湯島2-1-1 ☎03-3868-2651 (販売部) <http://www.taishukan.co.jp>



●A5判・306頁
定価＝本体2,300円＋税

一人ひとりの生徒が
輝く運動部活動を
実現する

理論と実践 運動部活動の

友添秀則〔編著〕

運動部活動は全国のほとんどの学校で取り組み、学校生活に彩りを添える教育活動である。一方で、体罰・暴力、勝利至上主義、顧問教師の過重労働などが問題視されている。本書は、多くの問題を抱える運動部活動を改善し、その意義を実現するために、部活の歴史やあるべき姿から、実務的な知識や科学的な指導法まで網羅した、これからの部活指導に必読の書である。大学テキストにも最適の内容。

【主要目次】1. めざすべき運動部活動像／2. 運動部活動の歴史／3. 運動部活動と安全、事故対応／4. 運動部活動の指導に活かすスポーツ医学／5. 運動部活動を豊かにするマネジメント／6. 運動部活動の実例



岡村島外観



観光客と地元民に人気の“まる関カフェ”

けつける人もいるという。弓道授業は今でも人々の心に根付いており、今の中学生たちもそれを受け入れ誇りも持っている。教育基本法にある「伝統と文化の尊重」の成功例ではないであろうか。

また、岡村港の「まる関カフェ」では、地域おこしの協力隊として東京からきた男性が経営しており、店内は連日にぎわっている。当初は2・3年の契約で島に移住してきたそうだが、契約終了後もそのまま定住しているようだ。生徒たちの総合的な学習の時間にも「特産品を使ったスイーツ作り体験」として関わっているとのことだ。学校授業に協力隊が非常に協力的であり、役立っていることがうかがえる。

伝統芸能である小笠原流弓術と地域おこし協力隊、この2点が地域活性化のための鍵になっているのではないだろうか。関前中学校において伝統芸能「小笠原流弓術」が連綿と学習されることを願ってやまない。

(文＝長澤克成・写真＝横内裕史)

快適で安全な都市空間の創造をめざす …東洋実業グループ

- ビルディング・トータル・マネジメント
- 清掃等建築物の環境衛生管理
- 空調、電気、水系統等諸設備の運用、管理
- 警備、保安、駐車場管理
- 原子力セキュリティ及び施設メンテナンス
- 工場、ダム等のセキュリティ
- 案内、受付他料金徴集業務
- 公園等のグリーンメンテナンス
- ビルメンテナンス用ソフトの開発販売
- バイオ研究開発
- その他建築物の運用、管理に係る一切の業務



株式会社 東洋実業

代表取締役 横田 正弘

札幌 本社／札幌市中央区北六条西22丁目250番14東実ビル TEL(011)612-1911(代)
東京 本社／東京都新宿区西新宿1丁目26番2号新宿野村ビル TEL(03)3345-0531
営業 所／函館・室蘭・苫小牧・千歳・恵庭・小樽・余市・岩内・石狩・岩見沢・旭川
士別・富良野・占冠・帯広・北見・釧路・日高・遠別・深川・埼玉
海外 事業／株式会社東洋実業マレーシア／東洋実業シンガポール PTE. LTD.／東洋
セキュリティ&ビルディング・マネジメント(香港) LTD.